

## アルツハイマー病で沈着するアミロイド $\beta$ 、心臓にも有害

心不全とアルツハイマー病は健康への脅威であり、これらの併存には注意が必要である。認知障害が血流欠損や血管障害、炎症などにより心不全に結びつくとされている一方で、アルツハイマー病患者に心筋機能不全がみられるのか、また両疾患に共通の発症機序が存在するのかは分かっていない。本研究では、アルツハイマー病の診断を受けた患者の心臓にアミロイド $\beta$ がみられるのか、またそれが心筋機能に影響を及ぼすのかについて後ろ向き横断研究を実施し検討した。

アルツハイマー病患者 22 例と健康な対照群 35 例とを心エコーにより比較した結果、アルツハイマー病患者では左心室壁の肥厚が認められ、拡張機能障害が予測された。また脳と同様に心筋にもアミロイド $\beta$  40 およびアミロイド $\beta$  42 が沈着しており、アルツハイマー病患者でより多くみられた。

したがって、アルツハイマー病患者の脳に沈着するアミロイド $\beta$ は、心臓にも認められ、心筋機能に障害を与える可能性が示唆された。また、アルツハイマー病患者の心臓ではアミロイド $\beta$ の値がより高いことも分かった。

出典：Journal of the American College of Cardiology. 2016; 68(22): 2395-2407